

家庭ごみ排出実態調査

報告書

平成30年 3月

東京都北区

《 目 次 》

第1章 調査概要	1
1 調査の目的.....	1
2 調査の概要.....	1
(1) 分析対象物.....	1
(2) 調査対象地域.....	1
(3) 調査規模ならびにサンプル数.....	1
(4) 調査日程.....	2
(5) 分析場所.....	2
(6) 調査方法.....	3
第2章 調査結果	5
1 ヒアリング調査結果.....	5
(1) 世帯人数分布.....	5
(2) 蓄積日数分布.....	6
2 分析結果.....	7
(1) 排出原単位.....	7
(2) 排出原単位の分布.....	10
(3) 分類項目ごとの排出原単位.....	12
第3章 資源化可能物等の解析	14
1 可燃ごみの解析.....	14
2 不燃ごみの解析.....	16
第4章 可燃ごみの厨芥類組成の解析	18
1 可燃ごみの厨芥類組成の解析.....	18
第5章 前回までの調査との比較	19
1 ヒアリング調査結果.....	19
(1) 世帯人数分布.....	19
(2) 蓄積日数分布.....	20
2 分析結果.....	21
(1) 世帯人数ごとの排出原単位.....	21
(2) クラスターごとの排出原単位.....	22
(3) 排出原単位の分布（可燃ごみ）.....	23
(4) 排出原単位の分布（不燃ごみ）.....	24
(5) 大分類における排出原単位.....	25
(6) 細分類における排出原単位.....	26
(7) 分別不適正率及び資源化可能率.....	30

第 1 章 調査概要

1 調査の目的

本調査は、家庭から排出される可燃ごみ及び不燃ごみの排出原単位や組成割合等の変化を把握することを目的とし、平成 26 年度及び平成 27 年度に実施したごみ排出実態調査（以下それぞれ「H26 調査」及び「H27 調査」、両者を合わせて「前回までの調査」という。）の追跡調査という位置づけのもと実施した。

2 調査の概要

（1）分析対象物

分析対象物は各家庭から集積所へ排出される家庭ごみとし、そのうち可燃ごみ及び不燃ごみとした。

（2）調査対象地域

対象地域のクラスターごとの調査対象町丁目とその特徴を表 1-1 に示す。なおクラスター④は、前回までの調査における対象地域の住民が減少しているため、対象地域を新たに選定した。その他の対象地域は前回までの調査と同様である。

表 1-1 調査対象地域

	調査対象町丁目	特徴
クラスター①	赤羽西 3 丁目	2-5 人世帯が多く、戸建、持ち家世帯が多い 23 区の東部、西部に多く分布する。
クラスター②	王子 1 丁目	単身、または 5 人の間借り世帯が多い。中心部に多く分布する。
クラスター③	志茂 2 丁目	人口密度が高く、共同住宅、民間の借家世帯が多い。
クラスター④	赤羽西 5 丁目	11 階以上の超高層公営借家が多い。

（3）調査規模ならびにサンプル数

調査規模は可燃ごみ 100 世帯、不燃ごみ 100 世帯とした。

クラスターごとの調査サンプル数は、区全体の世帯数（平成 22 年国勢調査結果より）に応じて設定した（表 1-2）。

表 1-2 調査サンプル数

	区全体		調査 サンプル数
	世帯数	割合	
クラスター①	30,408	19%	20
クラスター②	4,577	3%	10
クラスター③	78,124	48%	40
クラスター④	47,654	30%	30
計	160,763	100%	100

(4) 調査日程

ごみの排出原単位及びごみの組成は季節的な変動があるため、前回までの調査と同時期の7月上旬ごろに実施することを前提に、表 1-3 に示す日程で実施した。

表 1-3 調査日程

調 査 日	調 査 項 目	
	可燃ごみ	不燃ごみ
平成 29 年 6 月 26 日 (月)	赤羽西 3 丁目 赤羽西 5 丁目	王子 1 丁目
平成 29 年 7 月 5 日 (水)	王子 1 丁目	志茂 2 丁目
平成 29 年 7 月 7 日 (金)	志茂 2 丁目	赤羽西 3 丁目
平成 29 年 7 月 14 日 (金)	—	赤羽西 5 丁目

(5) 分析場所

分析作業は北清掃工場プラットホーム（下図枠線部分）にて実施した。



(6) 調査方法

① 集積所ヒアリング調査

調査対象集積所に調査員が待機し、ごみを排出してきた世帯人に対して調査実施の旨を説明した。その後、調査協力を得られた世帯人に対し、①世帯人数、②ごみの蓄積日数の2項目のヒアリング調査を実施した。なお、得られたサンプルにはロット番号をふり、集積所のわきに置いて確保した。

② 排出原単位調査

必要量が確保出来た後、サンプルを回収し、分析場所（北清掃工場）へ搬入した。搬入後、サンプルをビニールシートの上に一時保管し、ロット番号ごとに表1-4に示す重量を測定した。

③ ごみの廃棄

調査終了後のごみは、可燃ごみは北清掃工場にてごみピットへ投入し、不燃ごみは堀船清掃作業所へ搬入した。

④ データの集計・解析

得られた調査データを集計し、家庭ごみ排出原単位を解析した。

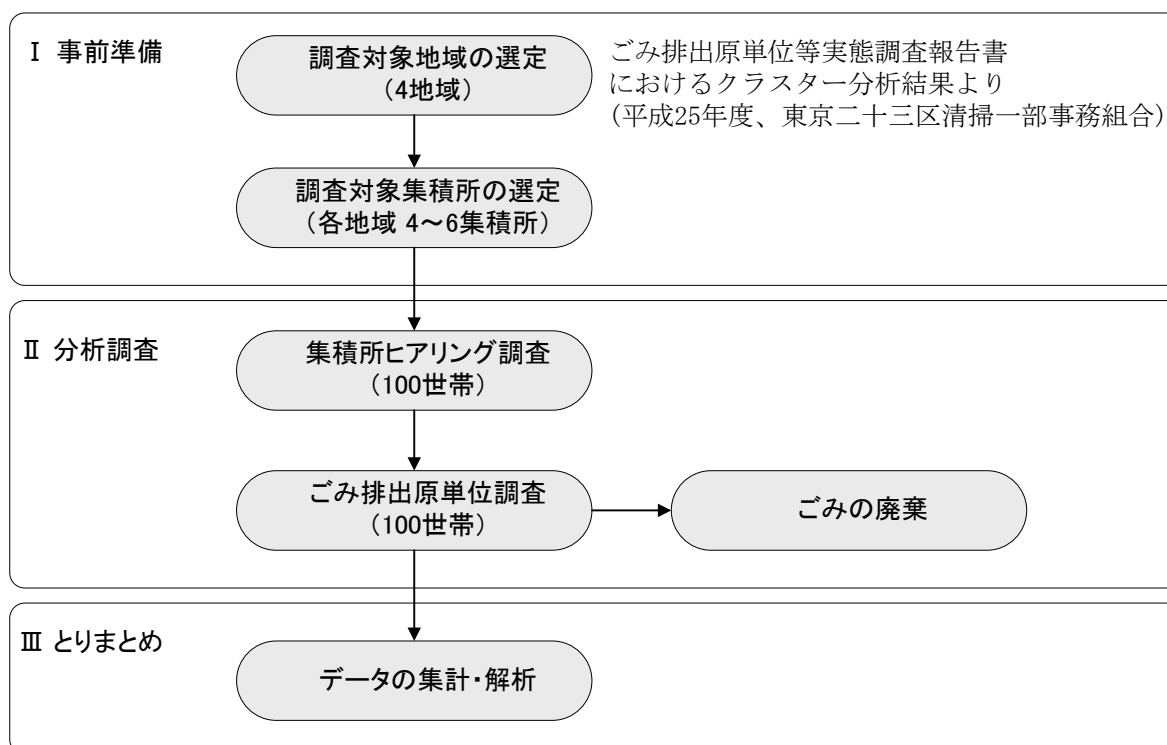


図1-1 調査フロー

表 1-4 分析調査項目

種別	分類項目			No.	代表品目
	大分類	中分類	細分類		
可燃物	厨芥類		調理くず	1	
			未利用食品	2	未開封食品
			食べ残し	3	
			その他	4	
	紙類	容器包装	段ボール	5	ボール紙製の緩衝芯のあるもの
			資源紙パック	6	牛乳、ジュース等の紙パック（内側に銀紙が貼っていないもの）
			その他紙容器(リサイクル可)(雑がみ含む)	7	菓子箱、ボール箱
			その他紙容器（リサイクル不可）	8	アルミ蒸着紙パック
			その他紙包装	9	紙袋、包装紙
		容器包装以外	新聞紙・ちらし	10	
			雑誌・書籍	11	週刊誌、月刊誌、書籍、パンフレット、ノート、カタログ
			OA用紙	12	コピー用紙、図面
			その他紙類(リサイクル可)(雑がみ含む)	13	ダレクトメール、はがき、封筒(窓無)、トレットペーパーの芯等リサイクル可能紙類
			その他紙類（リサイクル不可）	14	ティッシュペーパー、ビニールコート紙、封筒(窓付)、写真、感熱紙等リサイクル不適紙類
	草木類			15	剪定枝、木箱、割り箸、麻ひも、コルク
	繊維類			16	衣類、毛布、布きれ
	紙おむつ類			17	紙おむつ、生理用品
	プラスチック類	容器包装	ペットボトル	18	飲料・酒、醤油等のペットボトル
			その他のボトル	19	ブロー成型品（中空のもの）
			チューブ類	20	マヨネーズ、歯磨き粉の容器
			資源発泡トレイ	21	発泡系トレイ（白色のみ）
			その他の発泡トレイ	22	発泡系トレイ（色・柄付き）
			その他プラ容器	23	カップ、卵パック、惣菜の容器、ペットボトルのふた
			その他プラ包装	24	ラップ、フィルム、袋
			レジ袋（ごみとして出された袋）	25	コンビニの袋
		容器包装以外	その他	26	おもちゃ、CDケース、歯ブラシ、プリンター
	ゴム・皮革類			27	かばん、くつ、ベルト
	その他可燃物			28	猫砂、たばこの吸殻、保冷剤
不燃物	陶磁器・石類			29	
	金属類	容器包装	アルミ缶	30	飲料缶、食料缶
			スチール缶	31	飲料缶、食料缶
			その他容器類	32	容器のふた、スプレー缶、塗料缶、一斗缶
		容器包装以外	その他金属(リサイクル可)	33	なべ、やかん、ハンガー、アルミ箱
			その他金属(リサイクル不可)	34	はさみや包丁などの刃物類、アルミ皿
	びん・ガラス	容器包装	生きびん	36	ビール瓶、一升瓶
			無色雑びん	37	
			茶色雑びん	38	
			その他色雑びん	39	
		資源回収不適な雑びん	40	薬品、化粧品のみん	
	容器包装以外		41	板ガラス、ガラスコップ、耐熱ガラス	
	土砂・残土・灰			42	
	蛍光管			43	
	乾電池・マンガン電池・ボタン電池			44	
	体温計（電子体温計を除く）・温度計			45	
	その他不燃物			46	携帯カイロ
外袋	容器包装以外	レジ袋	47	ごみ袋として使用されたレジ袋	
		プラスチック袋	48	23区推奨、透明や半透明のごみ袋	

第2章 調査結果

1 ヒアリング調査結果

(1) 世帯人数分布

集積所でのヒアリング調査より得たクラスターごとの世帯人数分布を表2-1及び図2-1に示す。

可燃ごみは、合計では1人世帯と2人世帯の合計で7割を占めている。クラスター毎に見ると、クラスター①及びクラスター③は複数人世帯が多く、クラスター②及びクラスター④は比較的1人世帯が多い。

不燃ごみは、合計では1人世帯から4人以上世帯までが比較的均等に分布している。クラスター毎に見ると、クラスター①は1人世帯から4人以上世帯までが比較的均等に分布しており、クラスター②は3人世帯及び4人以上世帯がそれぞれ半数ずつを占めている。クラスター③は2人世帯が少なく、クラスター④は1人世帯及び2人世帯が多い。

対象地域を変更したクラスター④は、可燃ごみ、不燃ごみともにH27調査時よりも1人世帯が増加している傾向にあるが、他のクラスターにおいてもH27調査時と比較して世帯数毎の割合が必ずしも合致しているわけではないため、追跡調査という位置づけにおいて、対象地域を変更したことによる影響はないと考えられる。

表2-1 世帯人数別サンプル数

可燃ごみ						不燃ごみ					
世帯人数	クラスター①	クラスター②	クラスター③	クラスター④	合計	世帯人数	クラスター①	クラスター②	クラスター③	クラスター④	合計
1人	4	4	8	18	34	1人	4	0	12	12	28
2人	5	6	16	7	34	2人	6	0	5	14	25
3人	3	0	8	3	14	3人	5	5	12	4	26
4人以上	8	0	8	2	18	4人以上	5	5	11	0	21
合計	20	10	40	30	100	合計	20	10	40	30	100

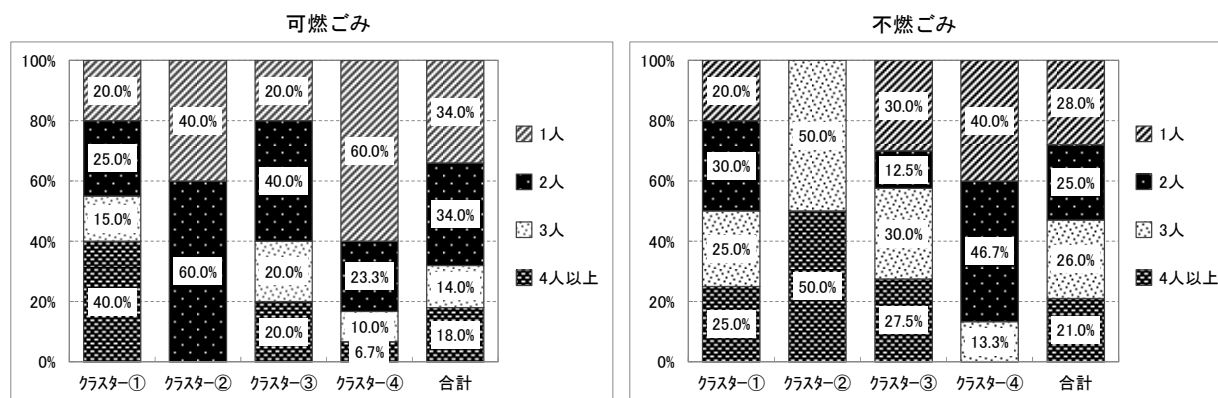


図2-1 世帯人数別サンプル数の割合

(2) 蓄積日数分布

蓄積日数は直近にごみを出した日をヒアリングすることで求めた。ヒアリングにより得られた蓄積日数を表2-2及び図2-2に示す。

可燃ごみは全体の93%が1回前の回収日(蓄積日数3~4日、収集曜日により異なる)に、残りの7%が2回前の回収日(蓄積日数7日)に出したと回答があった。クラスター毎に見ると、1人世帯の多いクラスター②及びクラスター④は蓄積日数が多い傾向にあった。

不燃ごみでは82%が1回前の回収日(蓄積日数2~3週間、収集曜日により異なる)に、残りの18%が2回前の回収日(蓄積日数4~5週間、収集曜日により異なる)に出したと回答があった。クラスター毎に見ると、クラスター③は蓄積日数が少なかった。不燃ごみでは、可燃ごみのようなクラスター毎の世帯数の特徴と蓄積日数との関連は見られなかった。

表2-2 蓄積日数分布

可燃ごみ						不燃ごみ					
蓄積日数	クラスター①	クラスター②	クラスター③	クラスター④	合計	蓄積日数	クラスター①	クラスター②	クラスター③	クラスター④	合計
3~4日	19	9	39	26	93	2~3週間	15	8	36	23	82
7日	1	1	1	4	7	4~5週間	5	2	4	7	18
それ以上	0	0	0	0	0	それ以上	0	0	0	0	0
合計	20	10	40	30	100	合計	20	10	40	30	100

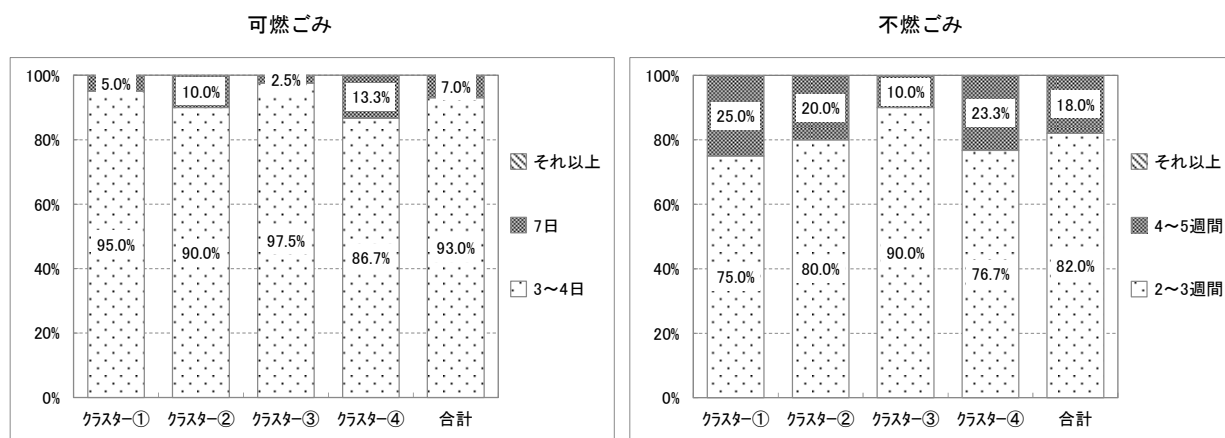


図2-2 蓄積日数分布

2 分析結果

(1) 排出原単位

① 全体の排出原単位

有効な調査サンプル数は可燃ごみ、不燃ごみそれぞれ 100 世帯とし、データの集計・解析を実施した。

可燃ごみ及び不燃ごみの排出原単位結果を表 2-3 及び図 2-3 に示す。可燃ごみは 232.9g/人日、不燃ごみは 26.6g/人日であった。

H27 調査と比較すると、可燃ごみは 24.9g/人日減、不燃ごみは 2.8g/人日減であり、合計で 27.7g/人日の減となった。

表 2-3 排出原単位

単位：g/人日

	H26 調査	H27 調査	本調査
可燃ごみ	265.1	257.8	232.9
不燃ごみ	20.5	29.4	26.6
合計	285.6	287.2	259.5

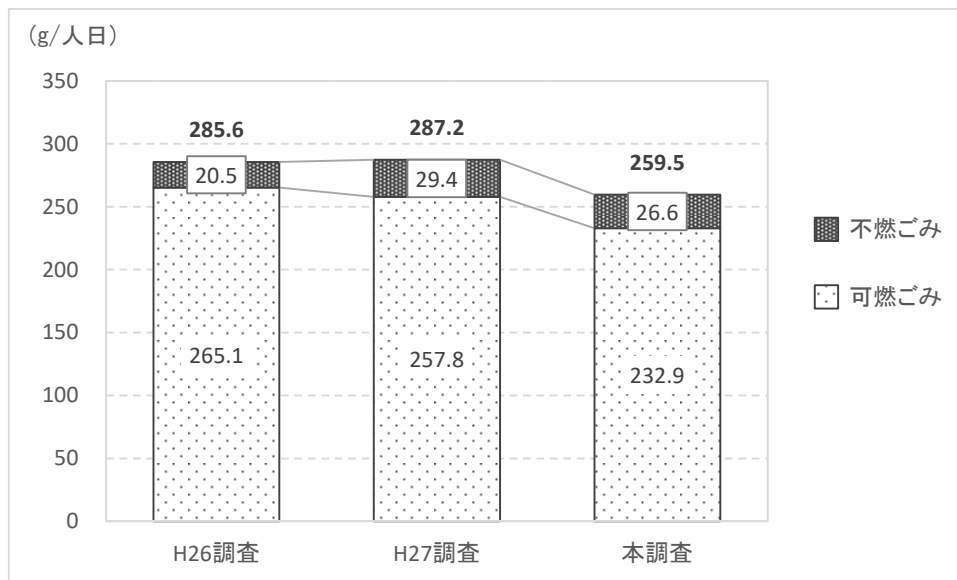


図 2-3 排出原単位

② 世帯人数ごとの排出原単位

世帯人数ごとの排出原単位を表 2-4 及び図 2-4 に示す。

可燃ごみと不燃ごみの合計は、1人世帯の排出原単位が最も大きく、3人世帯が最も小さい結果となった。可燃ごみ、不燃ごみ共に同様の傾向があった。

表 2-4 世帯人数ごとの排出原単位

単位：g/人日

	1人世帯	2人世帯	3人世帯	4人以上世帯	合計
可燃ごみ	306.1	234.4	185.9	213.8	232.9
不燃ごみ	46.1	30.0	19.9	24.8	26.6
合計	352.2	264.4	205.8	238.6	259.5

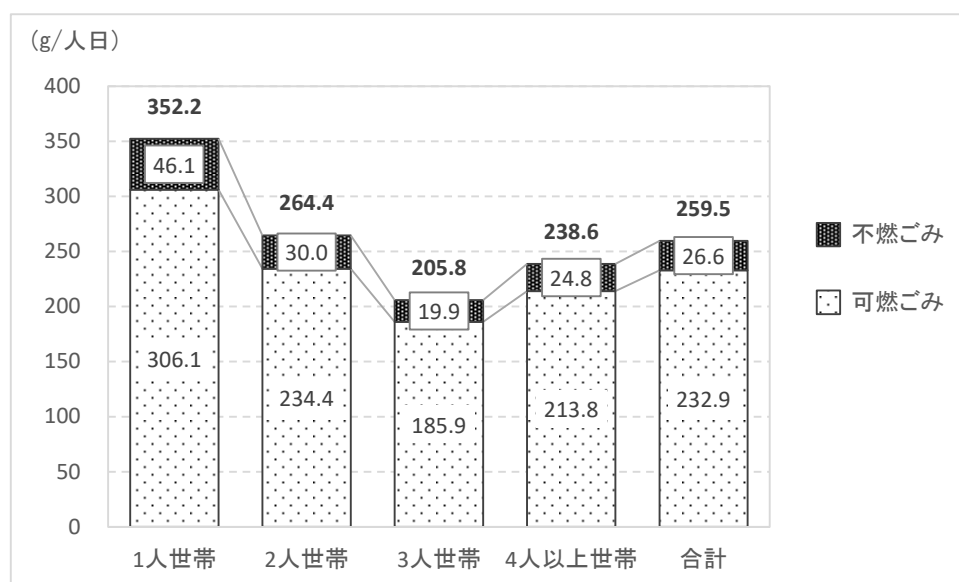


図 2-4 世帯人数ごとの排出原単位

③ クラスターごとの排出原単位

クラスターごとの排出原単位を表2-5及び図2-5に示す。

可燃ごみと不燃ごみの合計は、クラスター①の排出原単位が最も大きく、クラスター③が最も小さい結果となった。可燃ごみは、合計と同様の傾向があったが、不燃ごみでは、クラスター③が最も多く、クラスター①が最も小さい結果となった。

表2-5 クラスターごとの排出原単位

単位：g/人日

	クラスター①	クラスター②	クラスター③	クラスター④	合計
可燃ごみ	296.0	217.1	179.4	234.3	232.9
不燃ごみ	17.2	17.3	40.4	25.3	26.6
合計	313.2	234.4	219.8	259.6	259.5

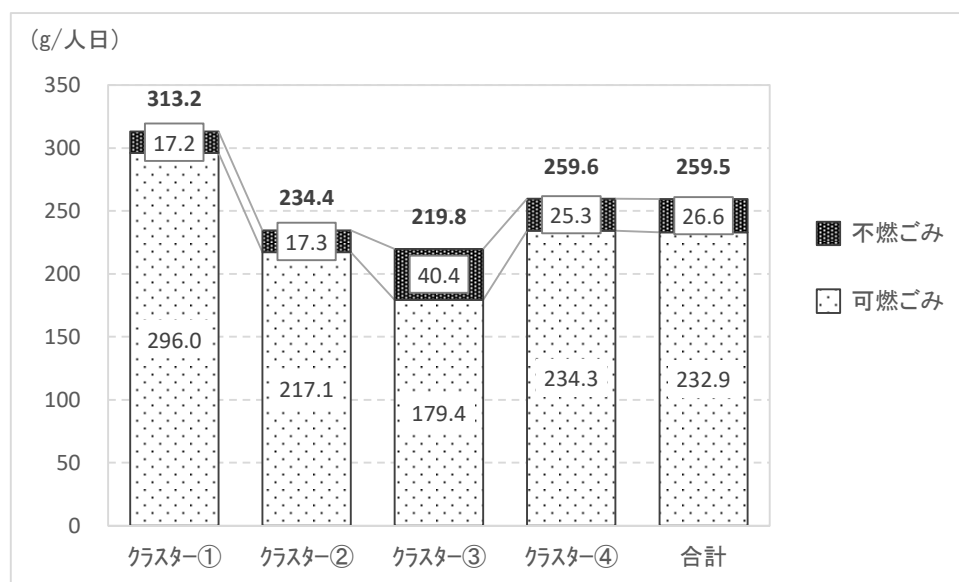


図2-5 クラスターごとの排出原単位

(2) 排出原単位の分布

① 可燃ごみ

可燃ごみの排出原単位の分布を表2-6に示す。

100 g/人日以上 150 g/人日未満の排出量原単位が最も多かった。また、200 g/人日未満の件数が全体の約50%を占めていた。一方で、900 g/人日以上の多量排出世帯が2件あり、そのうち最大は1271.3 g/人日であった。

表2-6 排出原単位の分布（可燃ごみ）

原単位 (g/人日)	件数 (件)	割合	累計
0 ~ 50	8	8.0%	8.0%
50 ~ 100	9	9.0%	17.0%
100 ~ 150	19	19.0%	36.0%
150 ~ 200	13	13.0%	49.0%
200 ~ 250	15	15.0%	64.0%
250 ~ 300	8	8.0%	72.0%
300 ~ 350	5	5.0%	77.0%
350 ~ 400	6	6.0%	83.0%
400 ~ 450	7	7.0%	90.0%
450 ~ 500	4	4.0%	94.0%
500 ~ 550	0	0.0%	94.0%
550 ~ 600	1	1.0%	95.0%
600 ~ 650	0	0.0%	95.0%
650 ~ 700	2	2.0%	97.0%
700 ~ 750	1	1.0%	98.0%
750 ~ 800	0	0.0%	98.0%
800 ~ 850	0	0.0%	98.0%
850 ~ 900	0	0.0%	98.0%
900 以上	2	2.0%	100.0%

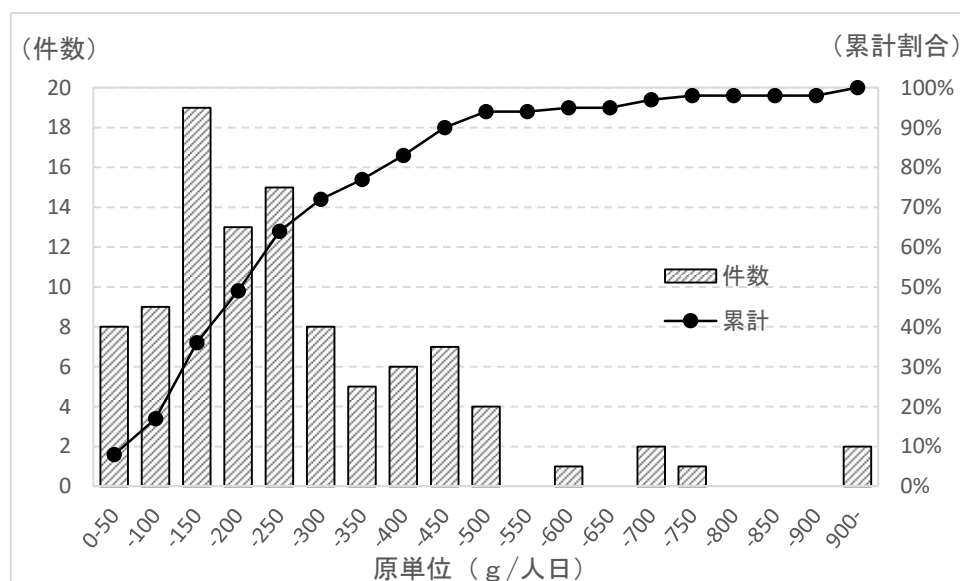


図2-6 排出原単位の分布（可燃ごみ）

② 不燃ごみ

不燃ごみの排出原単位の分布を表2-7に示す。

5g/人日以上10g/人日未満の排出量原単位が最も多かった。また、20g/人日未満の件数が全体の約50%を占めていた。一方で、100g/人日以上の多量排出世帯が6件あり、そのうち最大は228.2g/人日であった。

表2-7 排出原単位の分布（不燃ごみ）

原単位(g/人日)	件数(件)	割合	累計
0～5	9	9.0%	9.0%
5～10	18	18.0%	27.0%
10～15	11	11.0%	38.0%
15～20	14	14.0%	52.0%
20～25	7	7.0%	59.0%
25～30	8	8.0%	67.0%
30～35	3	3.0%	70.0%
35～40	5	5.0%	75.0%
40～45	3	3.0%	78.0%
45～50	1	1.0%	79.0%
50～55	1	1.0%	80.0%
55～60	3	3.0%	83.0%
60～65	2	2.0%	85.0%
65～70	3	3.0%	88.0%
70～75	2	2.0%	90.0%
75～80	1	1.0%	91.0%
80～85	0	0.0%	91.0%
85～90	2	2.0%	93.0%
90～100	1	1.0%	94.0%
100以上	6	6.0%	100.0%

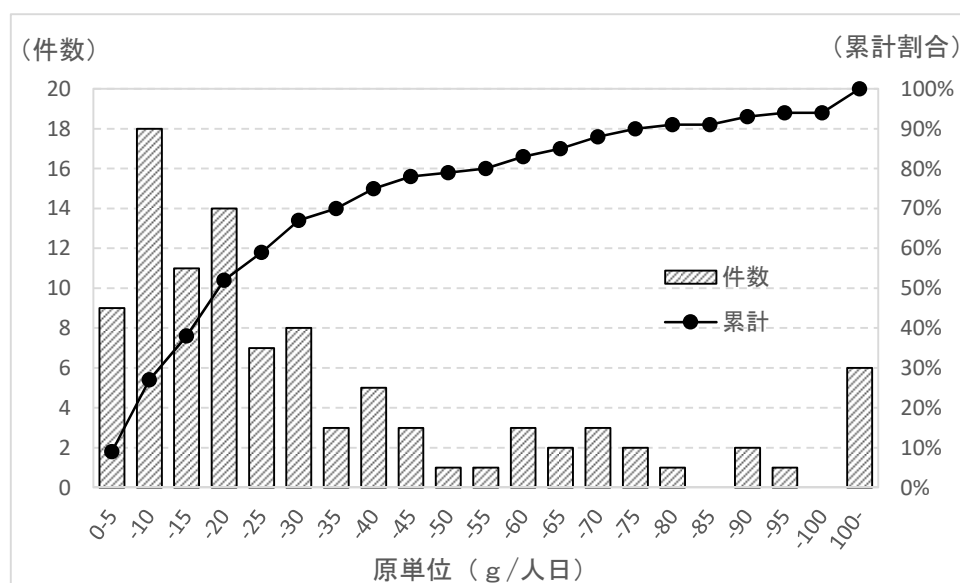


図2-7 排出原単位の分布（不燃ごみ）

(3) 分類項目ごとの排出原単位

① 大分類における排出原単位

大分類項目における排出原単位を表2-8及び図2-8に示す。

可燃ごみは、厨芥類が約3割を占めており、多いものから厨芥類、紙類、プラスチック類の3項目で全体の約75%となっている。

不燃ごみは、多いものから金属類、陶磁器・石類、びん・ガラスで全体の約80%を占めた。

表2-8 排出原単位（大分類）

種別	分類項目（大分類）	可燃ごみ		不燃ごみ	
		原単位	割合	原単位	割合
可燃物	厨芥類	77.2	33.1%	0.5	2.0%
	紙類	55.4	23.8%	0.2	0.6%
	草木類	4.5	1.9%	0.0	0.0%
	繊維類	24.5	10.5%	0.0	0.0%
	紙おむつ類	5.2	2.2%	0.0	0.0%
	プラスチック類	40.7	17.5%	2.4	8.9%
	ゴム・皮革類	4.5	1.9%	0.0	0.0%
	その他可燃物	14.7	6.3%	0.0	0.0%
不燃物	陶磁器・石類	0.4	0.2%	5.8	21.9%
	金属類	1.1	0.5%	10.8	40.7%
	びん・ガラス	2	0.9%	4.8	18.0%
	土砂・残土・灰	0	0.0%	0.0	0.2%
	蛍光管	0	0.0%	0.2	0.6%
	乾電池・マンガン電池・ボタン電池	0.2	0.1%	1.5	5.6%
	体温計（電子体温計を除く）・温度計	0	0.0%	0.0	0.0%
	その他不燃物	0	0.0%	0.1	0.5%
外袋	ごみ袋	2.5	1.1%	0.3	1.0%

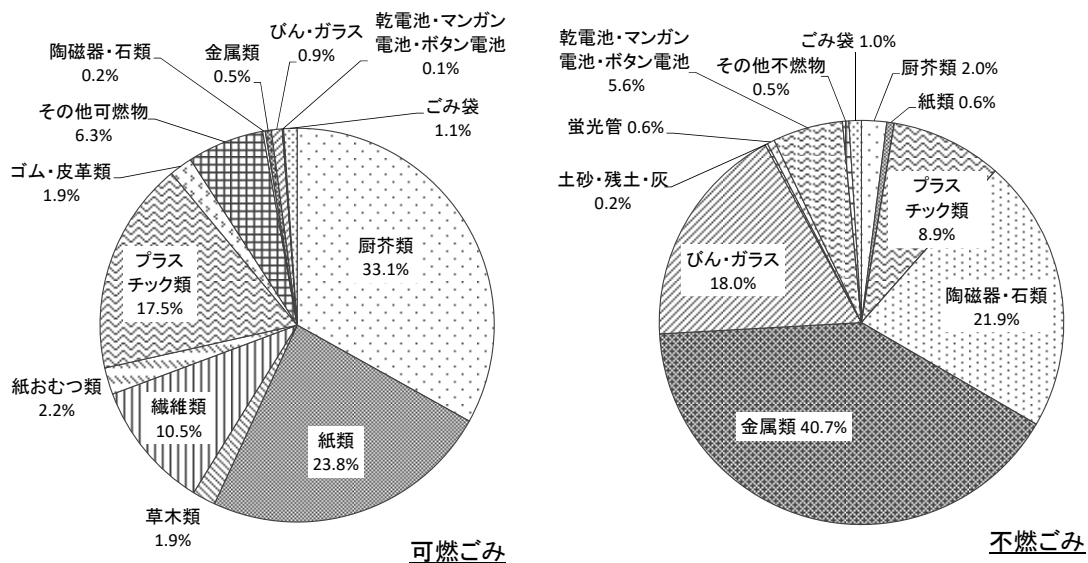


図2-8 排出原単位（大分類）

② 細分類における排出原単位

細分類における可燃ごみと不燃ごみの排出原単位を表2-9に示す。

表2-9 細項目の排出原単位

種別	分類項目			可燃ごみ		不燃ごみ		
	大分類	中分類	細分類	原単位(g/人日)	割合	原単位(g/人日)	割合	
可燃物	厨芥類	調理くず		61.62	26.44%	0	0.00%	
		未利用食品		10.01	4.30%	0.34	1.28%	
		食べ残し		5.54	2.38%	0.18	0.69%	
		その他		0.06	0.02%	0	0.00%	
	紙類	容器包装	段ボール	2.97	1.28%	0.06	0.24%	
			資源紙パック	3.04	1.31%	0	0.00%	
			その他紙容器(リサイクル可)(雑がみ含む)	8.24	3.54%	0	0.01%	
			その他紙容器(リサイクル不可)	0.97	0.42%	0	0.00%	
			その他紙包装	1.45	0.62%	0.05	0.18%	
		容器包装以外	新聞紙・ちらし	9.73	4.18%	0.04	0.16%	
			雑誌・書籍	5.04	2.16%	0	0.00%	
			OA用紙	0.4	0.17%	0	0.00%	
			その他紙類(リサイクル可)(雑がみ含む)	4.53	1.94%	0	0.00%	
			その他紙類(リサイクル不可)	18.98	8.15%	0	0.02%	
	草木類			4.51	1.94%	0.01	0.03%	
	繊維類			24.46	10.49%	0	0.01%	
	紙おむつ類			5.2	2.23%	0	0.00%	
	プラスチック類	容器包装	ペットボトル	1.05	0.45%	0.01	0.03%	
			その他のボトル	3.04	1.31%	0.03	0.12%	
			チューブ類	0.86	0.37%	0.01	0.05%	
			資源発泡トレイ	0.27	0.12%	0	0.00%	
			その他の発泡トレイ	0.38	0.16%	0	0.00%	
			その他プラ容器	11.83	5.08%	0.14	0.52%	
			その他プラ包装	15.4	6.61%	0.16	0.62%	
			レジ袋(ごみとして出された袋)	2.91	1.25%	0.06	0.22%	
			容器包装以外	その他	5	2.15%	1.96	7.35%
		ゴム・皮革類			4.52	1.94%	0.01	0.04%
その他可燃物			14.73	6.32%	0.01	0.04%		
不燃物	陶磁器・石類			0.38	0.16%	5.82	21.85%	
	金属類	容器包装	アルミ缶	0.04	0.02%	0.02	0.06%	
			スチール缶	0.32	0.14%	0.45	1.70%	
			その他容器類	0.02	0.01%	1.22	4.57%	
		容器包装以外	その他金属(リサイクル可)	0	0.00%	2.02	7.60%	
			その他金属(リサイクル不可)	0.72	0.31%	4.18	15.70%	
	びん・ガラス	容器包装	小型家電	0	0.00%	2.94	11.05%	
			生きびん	0	0.00%	0	0.00%	
			無色雑びん	1.91	0.82%	1.15	4.32%	
			茶色雑びん	0	0.00%	0.21	0.79%	
			その他色雑びん	0	0.00%	0.07	0.25%	
	容器包装以外	資源回収不適な雑びん	0.11	0.05%	0.61	2.28%		
	土砂・残土・灰			0	0.00%	0.05	0.19%	
	蛍光管			0	0.00%	0.16	0.61%	
	乾電池・マンガン電池・ボタン電池			0.22	0.10%	1.49	5.60%	
	体温計(電子体温計を除く)・温度計			0	0.00%	0	0.00%	
	その他不燃物			0	0.00%	0.13	0.50%	
	外袋	ごみ袋	容器包装	レジ袋	1.1	0.47%	0.14	0.54%
			容器包装以外	プラスチック袋	1.37	0.59%	0.11	0.41%
	合計				232.93	100.00%	26.60	100.00%

第3章 資源化可能物等の解析

1 可燃ごみの解析

本調査結果より、可燃ごみにおける分別不適合率及び資源化可能率を解析した。解析結果を表3-1に示す。

分別不適合率は約17.5%、資源化可能率は約16.9%であった。

分別が不適合なものうち、資源化が不可なもの（不燃物）では、その他金属（リサイクル不可）が最も多く含まれていた。

資源化が可能なものでは、新聞紙・ちらしが最も多く約4.2%、次いで紙類のその他紙容器（雑紙含む）で約3.5%であった。ただし新聞紙の中には、厨芥類を包むのに使用されたもので水分を多く含んでいるものもあった。

表3-1 資源化可能物及び分別不適正の割合（可燃ごみ中）

種別	分類項目			組成割合	分別不適正率	資源化可能率	資源化可：○	
	大分類	中分類	細分類					
可燃物	厨芥類	調理くず		26.44%				
		未利用食品		4.30%				
		食べ残し		2.38%				
		その他		0.02%				
	紙類	容器包装	段ボール		1.28%	1.28%	1.28%	○
			資源紙パック		1.31%	1.31%	1.31%	○
			その他紙容器(リサイクル可)(雑がみ含む)		3.54%	3.54%	3.54%	○
			その他紙容器(リサイクル不可)		0.42%			
			その他紙包装		0.62%	0.62%	0.62%	○
		容器包装以外	新聞紙・ちらし		4.18%	4.18%	4.18%	○
			雑誌・書籍		2.16%	2.16%	2.16%	○
			OA用紙		0.17%	0.17%	0.17%	○
			その他紙類(リサイクル可)(雑がみ含む)		1.94%	1.94%	1.94%	○
			その他紙類(リサイクル不可)		8.15%			
	草木類			1.94%				
	繊維類			10.49%				
	紙おむつ類			2.23%				
	プラスチック類	容器包装	ペットボトル		0.45%	0.45%	0.45%	○
			その他のボトル		1.31%			
			チューブ類		0.37%			
			資源発泡トレイ		0.12%	0.12%	0.12%	○
			その他の発泡トレイ		0.16%	0.16%	0.16%	○
			その他プラ容器		5.08%			
			その他プラ包装		6.61%			
			レジ袋(ごみとして出された袋)		1.25%			
		容器包装以外	その他		2.15%			
	ゴム・皮革類			1.94%				
その他可燃物			6.32%					
不燃物	陶磁器・石類			0.16%	0.16%			
	金属類	容器包装	アルミ缶	0.02%	0.02%	0.02%	○	
			スチール缶	0.14%	0.14%	0.14%	○	
			その他容器類	0.01%	0.01%			
		容器包装以外	その他金属(リサイクル可)	0.00%			○	
			その他金属(リサイクル不可)	0.31%	0.31%			
	びん・ガラス	容器包装	生きびん	0.00%			○	
			無色雑びん	0.82%	0.82%	0.82%	○	
			茶色雑びん	0.00%			○	
			その他色雑びん	0.00%			○	
		資源回収不適な雑びん	0.05%	0.05%				
	容器包装以外			0.00%				
	土砂・残土・灰			0.00%				
	蛍光管			0.00%				
	乾電池・マンガン電池・ボタン電池			0.10%	0.10%			
	体温計(電子体温計を除く)・温度計			0.00%				
	その他不燃物			0.00%	0.00%			
外袋	ごみ袋	容器包装	レジ袋	0.47%				
		容器包装以外	プラスチック袋	0.59%				
合計				100.00%	17.54%	16.91%		

2 不燃ごみの解析

本調査結果より、不燃ごみにおける分別不適合率及び資源化可能率を解析した。解析結果を表3-2に示す。

分別不適合率は約37.4%、資源化可能率は約26.4%であった。

分別が不適合なもののうち、資源化が不可なもの（可燃物）では、容器包装ではないプラスチック類が多く含まれていた。

資源化が可能なものでは、金属類の小型家電が最も多く約11.1%、次いで金属のその他金属（リサイクル可）で約7.6%であった。ただし、北区では平成26年10月よりその他金属の分別回収を実施しており、不燃ごみと同じ回収日に金属類のみを袋にまとめて出すこととなっているため、この項目には資源物として分別して出された金属も含まれている（集計上は区別されていない）。

表3-2 資源化可能物及び分別不適正の割合（不燃ごみ中）

種別	分類項目			組成割合	分別不適正率	資源化可能率	資源化可：○	
	大分類	中分類	細分類					
可燃物	厨芥類	調理くず		0.00%				
		未利用食品		1.28%	1.28%			
		食べ残し		0.69%	0.69%			
		その他		0.00%	0.00%			
	紙類	容器包装	段ボール		0.24%	0.24%	0.24%	○
			資源紙パック		0.00%			○
			その他紙容器(リサイクル可)(雑がみ含む)		0.01%	0.01%	0.01%	○
			その他紙容器(リサイクル不可)		0.00%			
			その他紙包装		0.18%	0.18%	0.18%	○
		容器包装以外	新聞紙・ちらし		0.16%	0.16%	0.16%	○
			雑誌・書籍		0.00%			○
			OA用紙		0.00%			○
			その他紙類(リサイクル可)(雑がみ含む)		0.00%			○
			その他紙類(リサイクル不可)		0.02%	0.02%		
	草木類			0.03%	0.03%			
	繊維類			0.01%	0.01%			
	紙おむつ類			0.00%				
	プラスチック類	容器包装	ペットボトル		0.03%	0.03%	0.03%	○
			その他のボトル		0.12%	0.12%		
			チューブ類		0.05%	0.05%		
			資源発泡トレイ		0.00%			○
			その他の発泡トレイ		0.00%			○
			その他プラ容器		0.52%	0.52%		
			その他プラ包装		0.62%	0.62%		
			レジ袋(ごみとして出された袋)		0.22%	0.22%		
			容器包装以外		その他	7.35%	7.35%	
		ゴム・皮革類			0.04%	0.04%		
その他可燃物			0.04%	0.04%				
不燃物	陶磁器・石類			21.85%				
	金属類	容器包装	アルミ缶	0.06%	0.06%	0.06%	○	
			スチール缶	1.70%	1.70%	1.70%	○	
			その他容器類	4.57%				
		容器包装以外	その他金属(リサイクル可)	7.60%	7.60%	7.60%	○	
			その他金属(リサイクル不可)	15.70%				
	びん・ガラス	容器包装	生きびん	0.00%			○	
			無色雑びん	4.32%	4.32%	4.32%	○	
			茶色雑びん	0.79%	0.79%	0.79%	○	
			その他色雑びん	0.25%	0.25%	0.25%	○	
			資源回収不適な雑びん	2.28%				
	容器包装以外			10.37%				
	土砂・残土・灰			0.19%				
	蛍光管			0.61%				
	乾電池・マンガン電池・ボタン電池			5.60%				
	体温計(電子体温計を除く)・温度計			0.00%				
	その他不燃物			0.50%				
外袋	ごみ袋	容器包装	レジ袋	0.54%				
		容器包装以外	プラスチック袋	0.41%				
合計				100.00%	37.38%	26.39%		

第4章 可燃ごみの厨芥類組成の解析

1 可燃ごみの厨芥類組成の解析

調査結果（厨芥類）を表4-1に示す。調理くずが最も多く79.7%、次いで未利用食品が13.0%、食べ残しが7.2%、その他が0.1%であった。

表4-1 厨芥類組成

大分類	中分類	排出量(g)	原単位(g/人日)	割合
厨芥類	調理くず	49,785	61.62	79.7%
	未利用食品	8,085	10.01	13.0%
	食べ残し	4,475	5.54	7.2%
	その他	45	0.06	0.1%

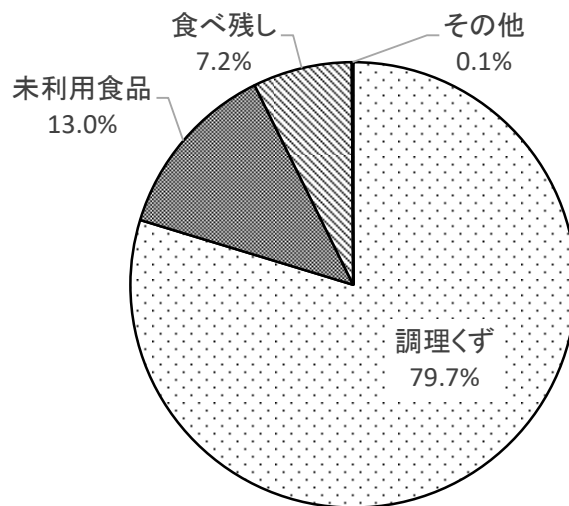


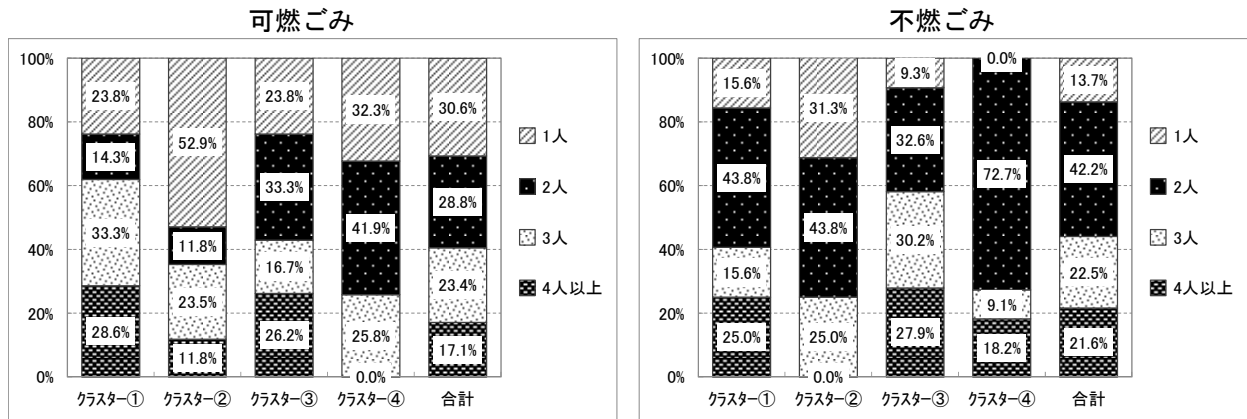
図4-1 厨芥類組成

第5章 前回までの調査との比較

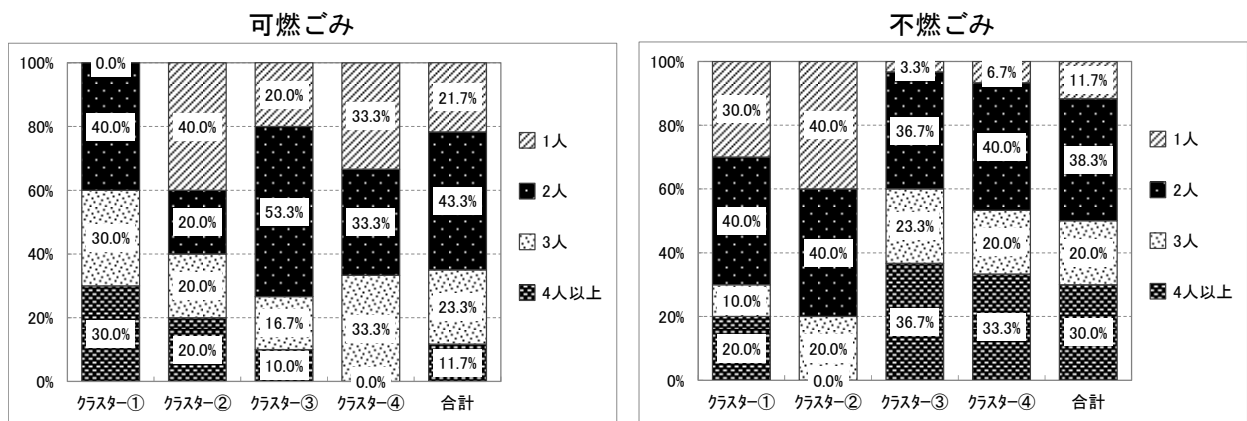
1 ヒアリング調査結果

(1) 世帯人数分布

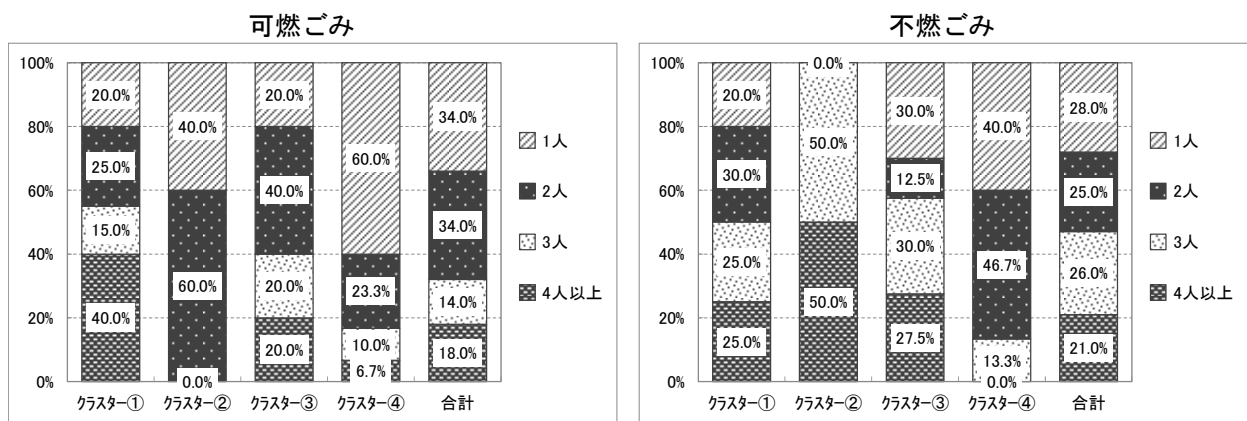
① H26 調査



② H27 調査

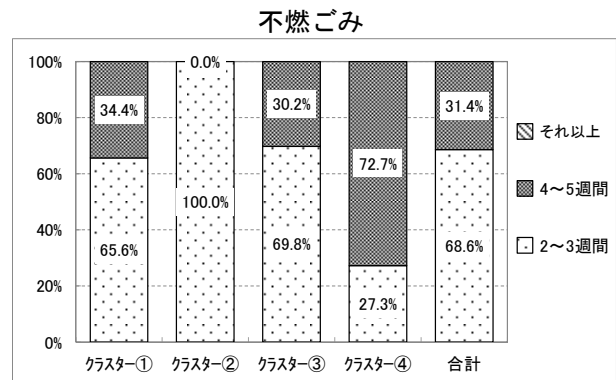
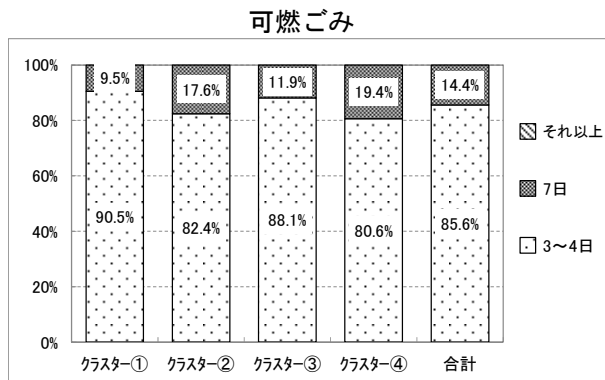


③ 本調査

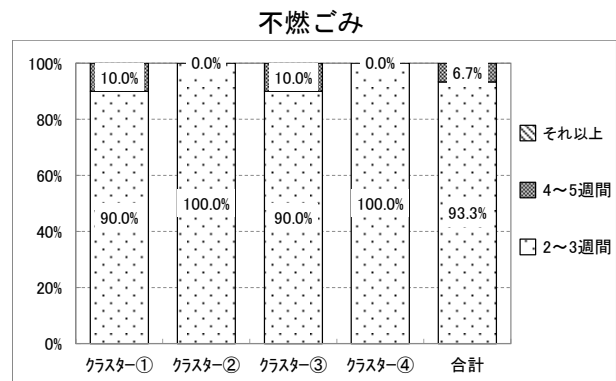
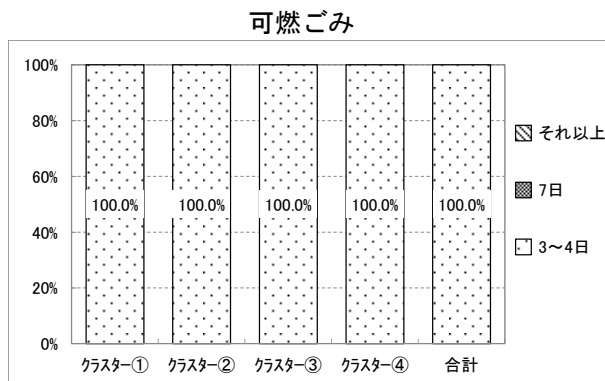


(2) 蓄積日数分布

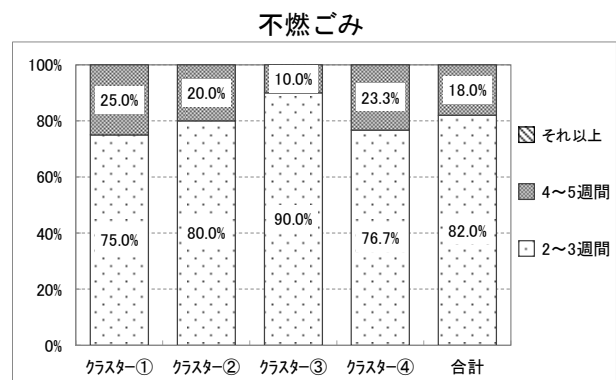
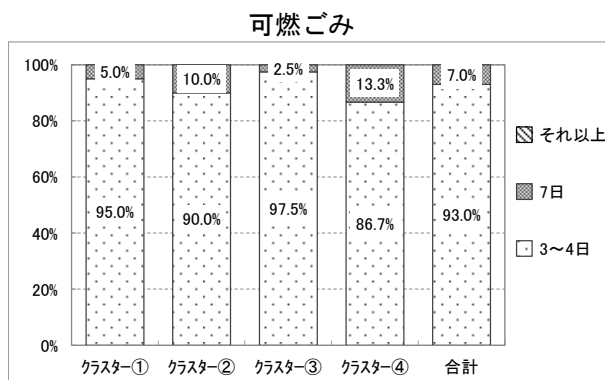
① H26 調査



② H27 調査



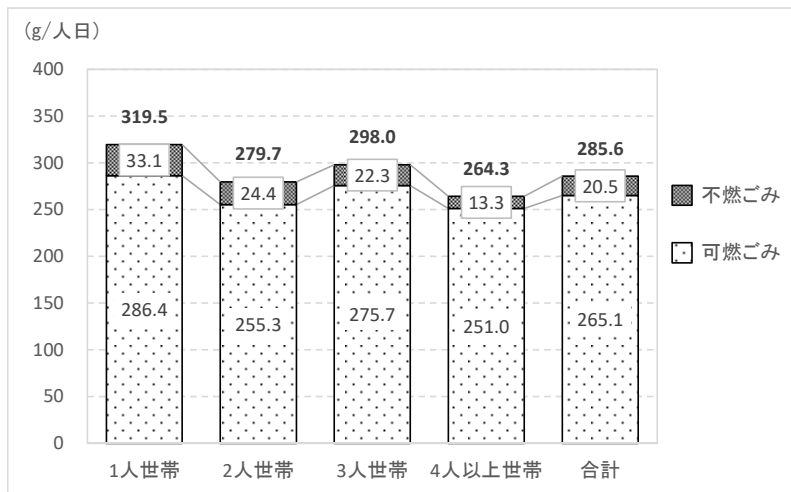
③ 本調査



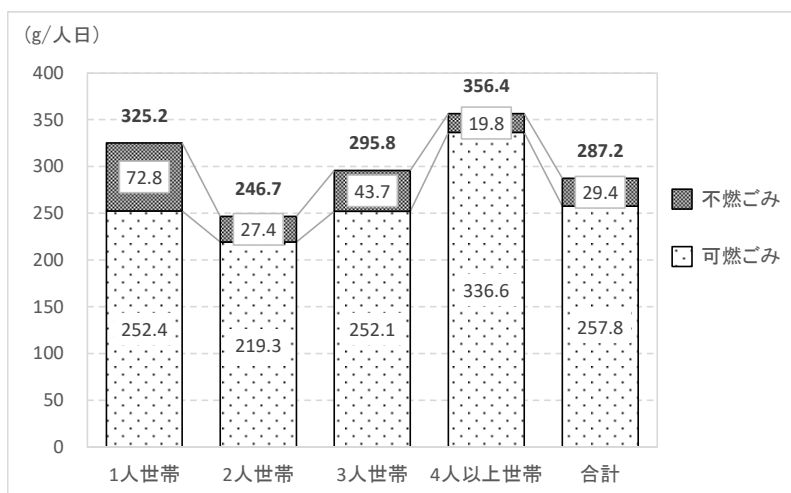
2 分析結果

(1) 世帯人数ごとの排出原単位

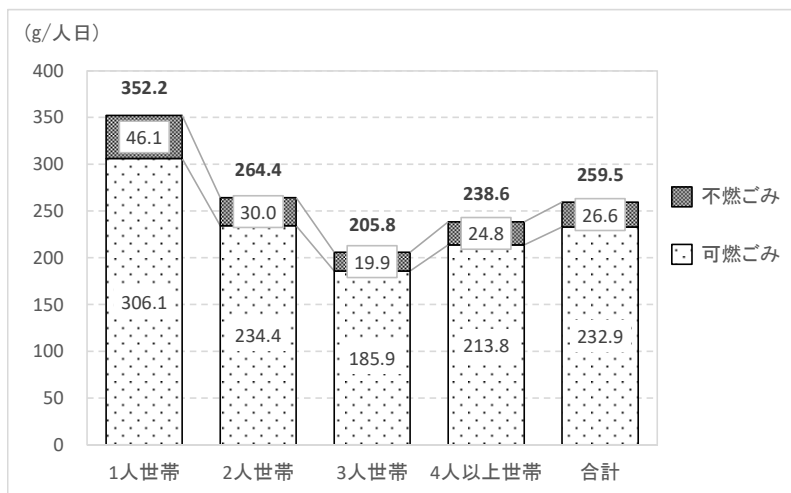
① H26 調査



② H27 調査

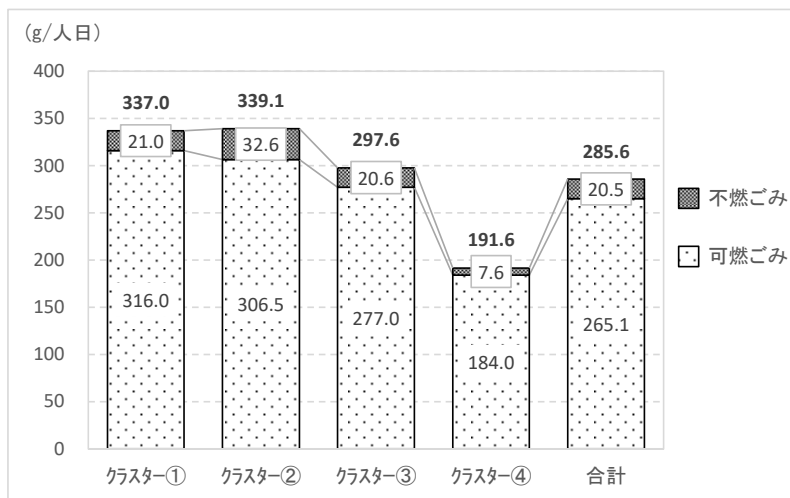


③ 本調査

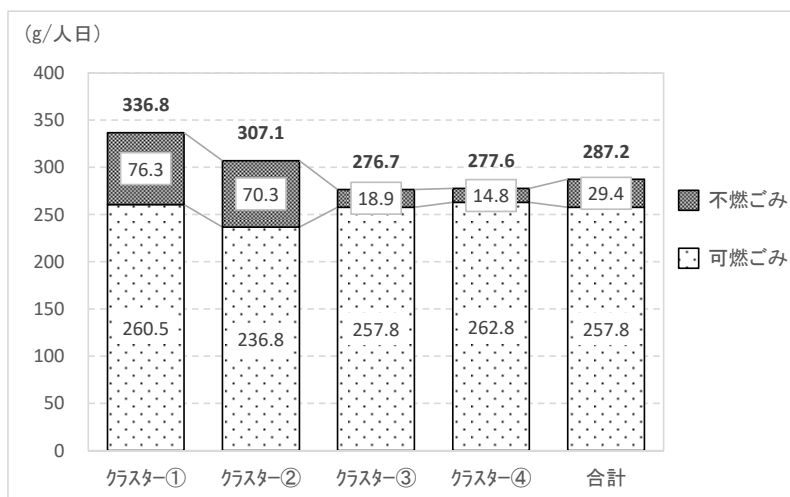


(2) クラスターごとの排出原単位

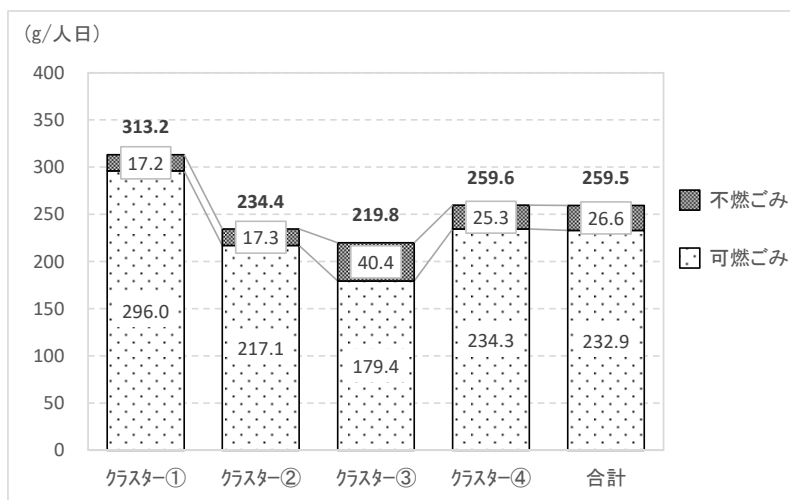
① H26 調査



② H27 調査

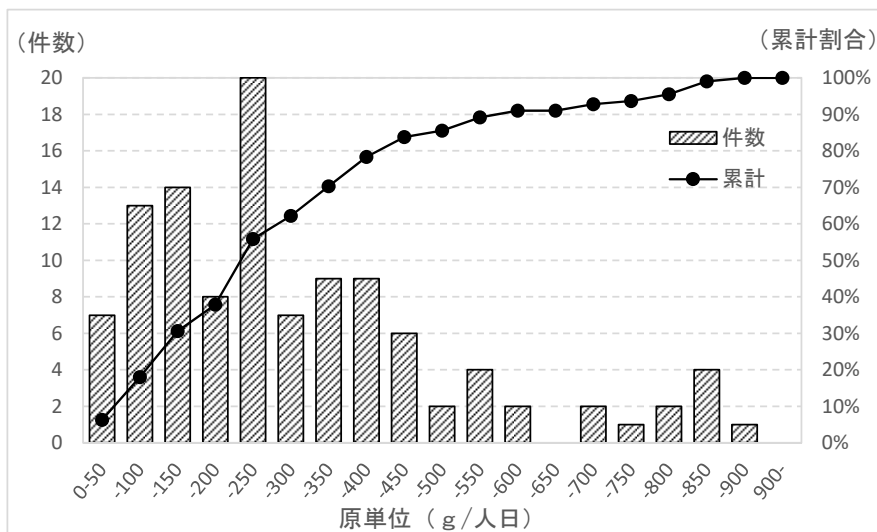


③ 本調査

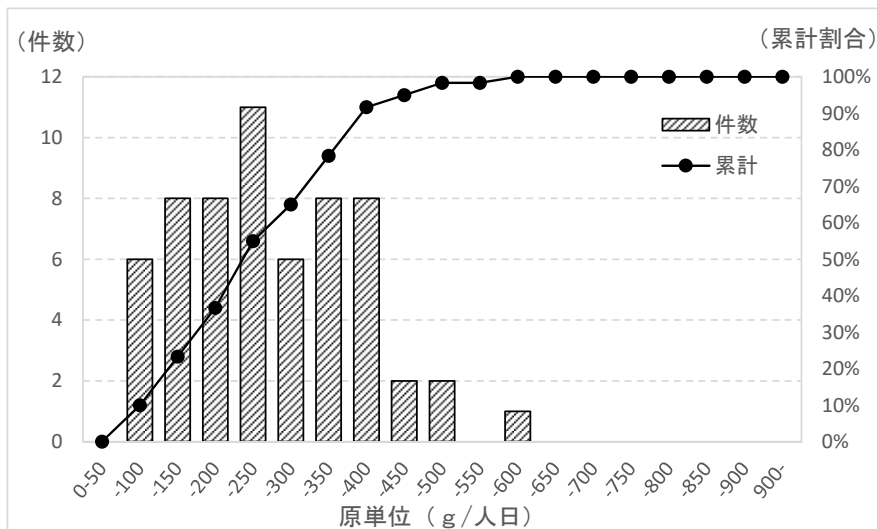


(3) 排出原単位の分布 (可燃ごみ)

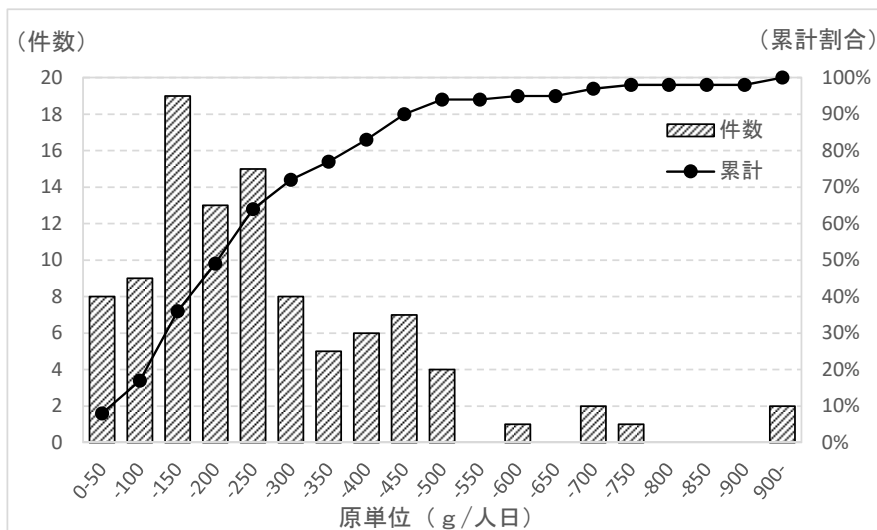
① H26 調査



② H27 調査

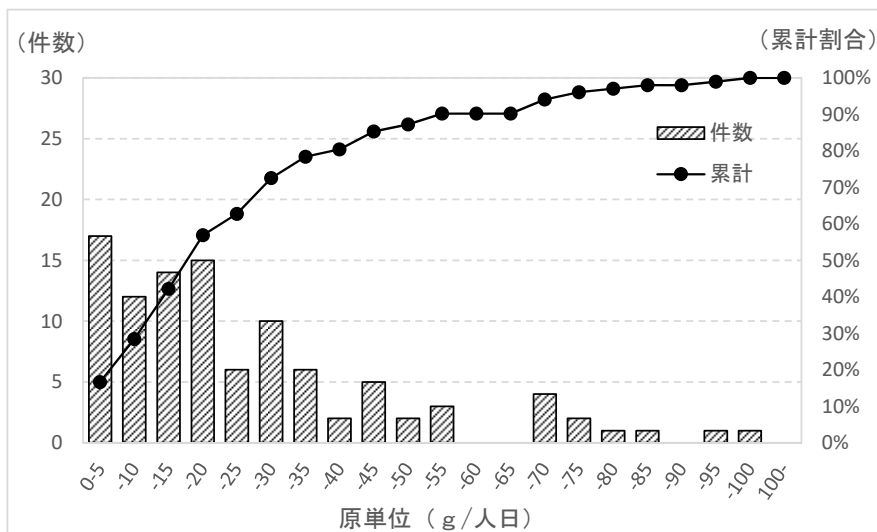


③ 本調査

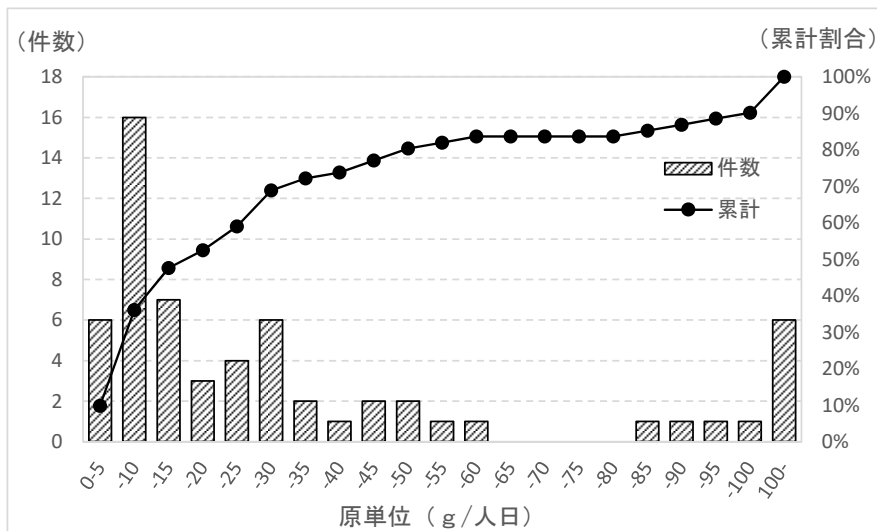


(4) 排出原単位の分布 (不燃ごみ)

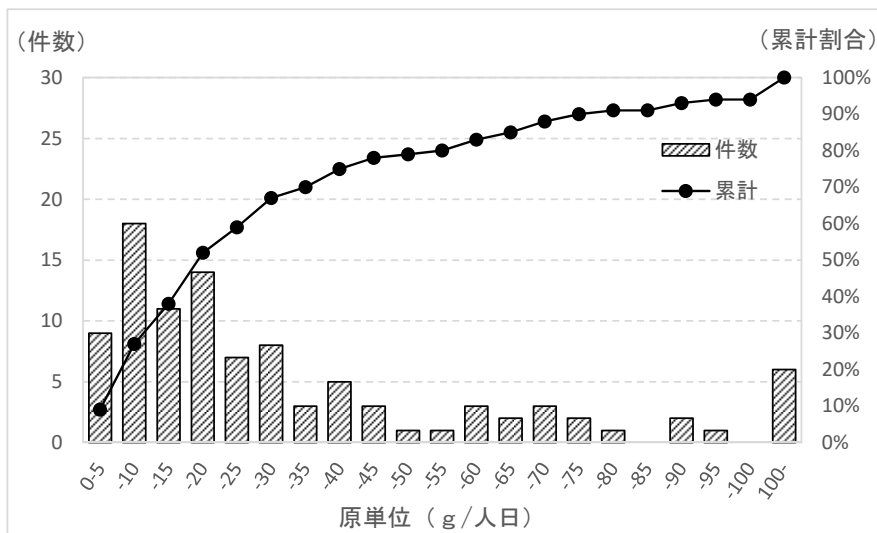
① H26 調査



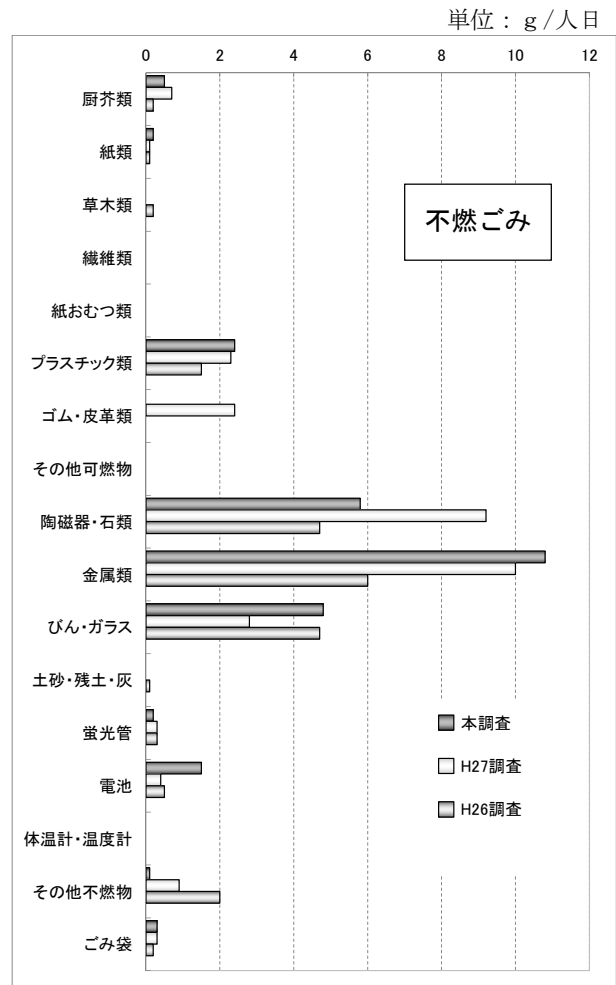
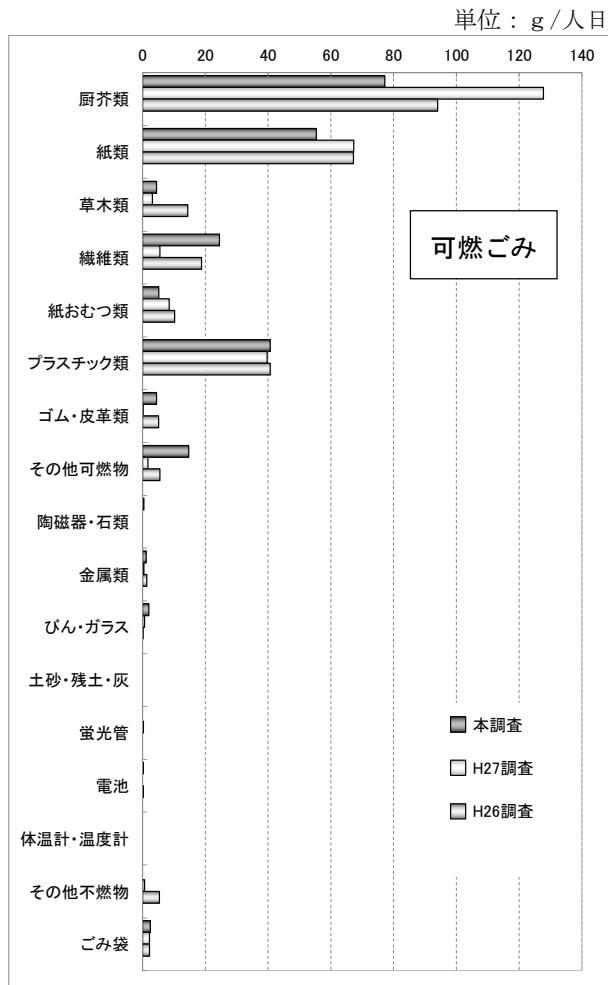
② H27 調査



③ 本調査

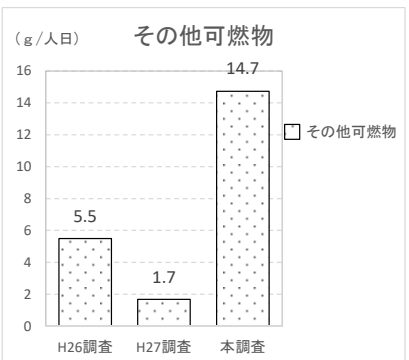
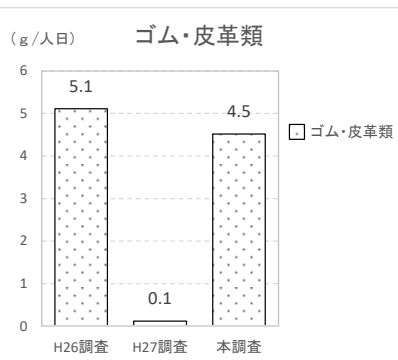
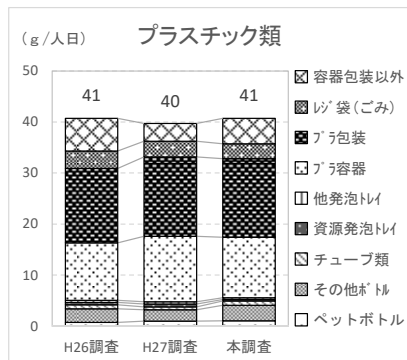
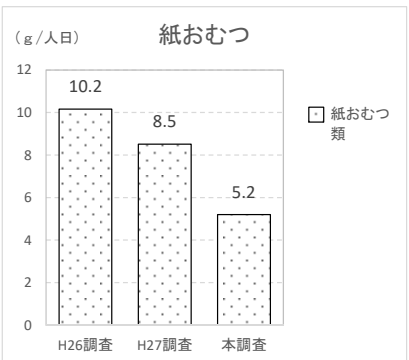
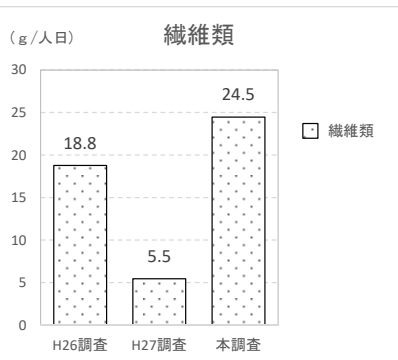
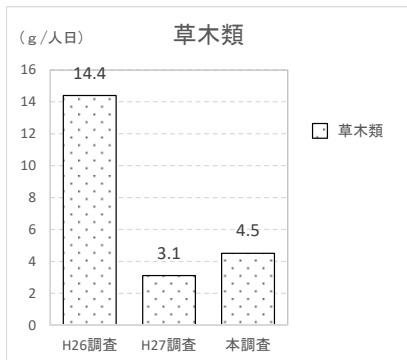
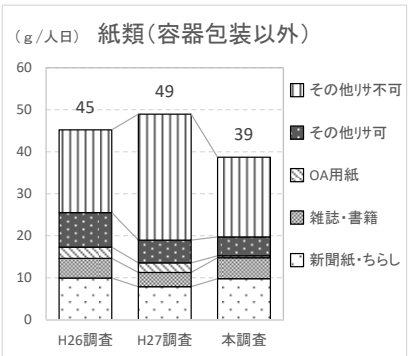
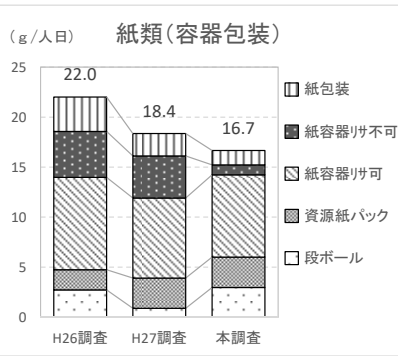
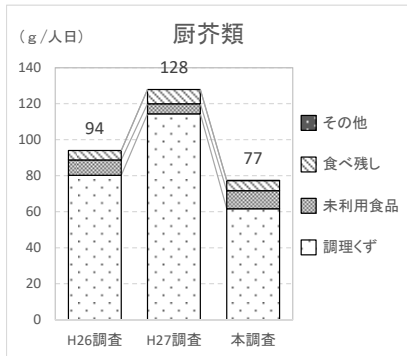


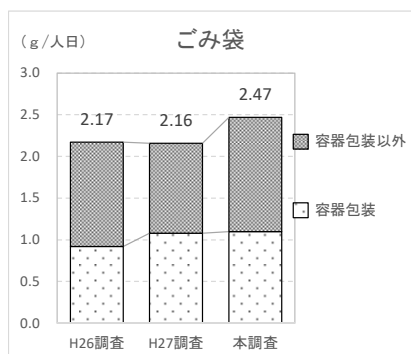
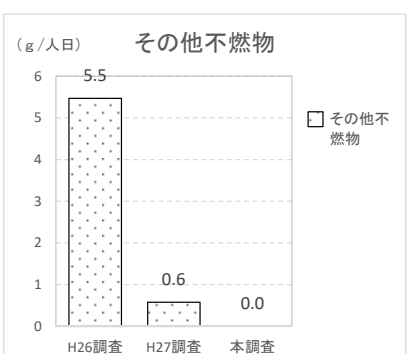
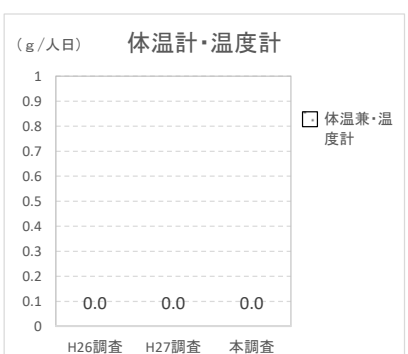
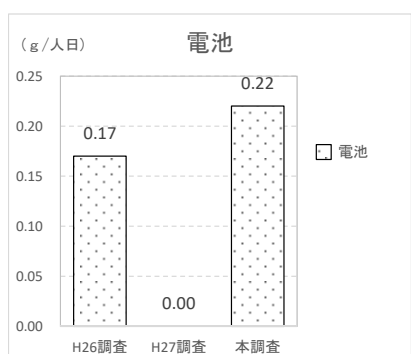
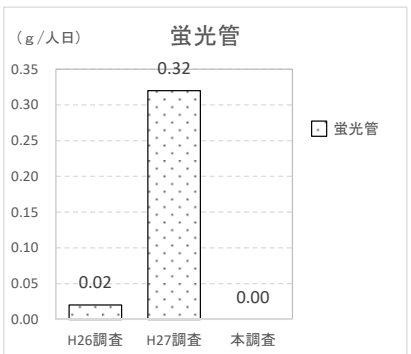
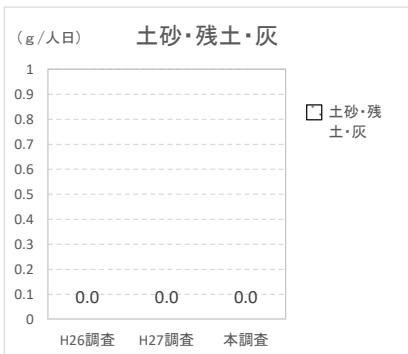
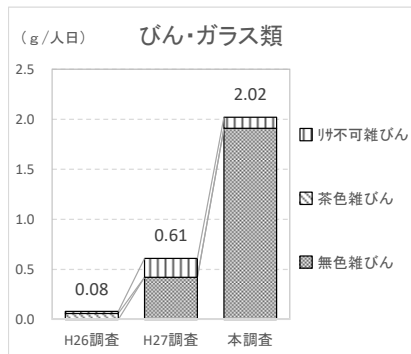
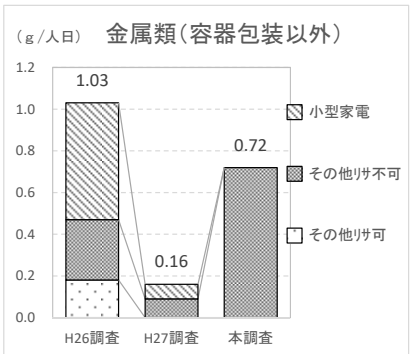
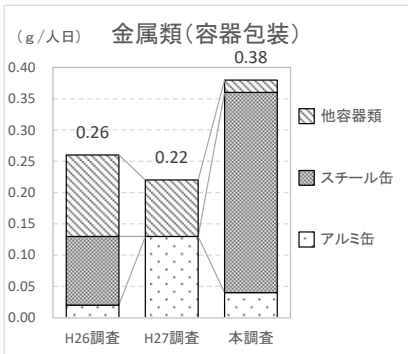
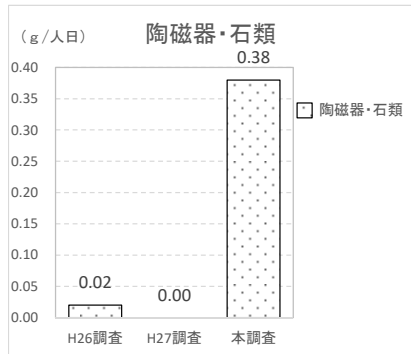
(5) 大分類における排出原単位



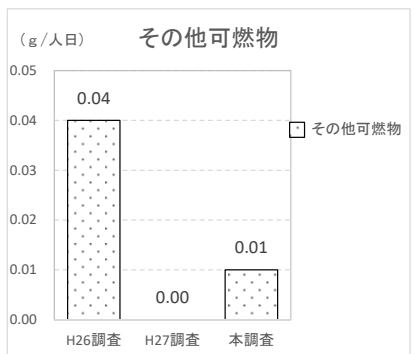
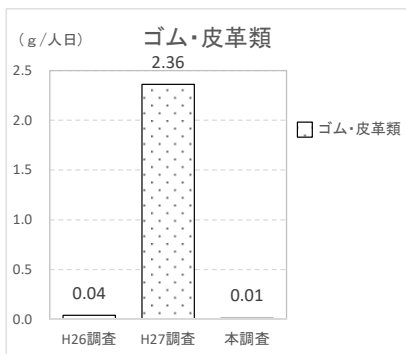
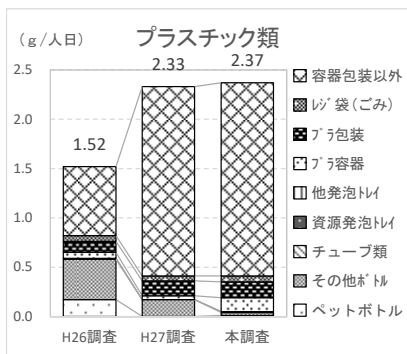
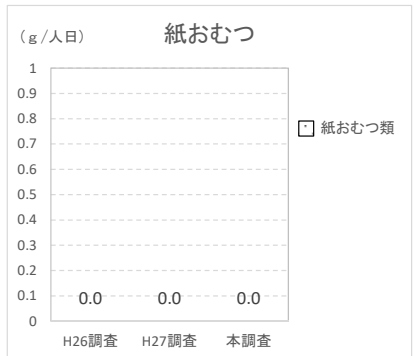
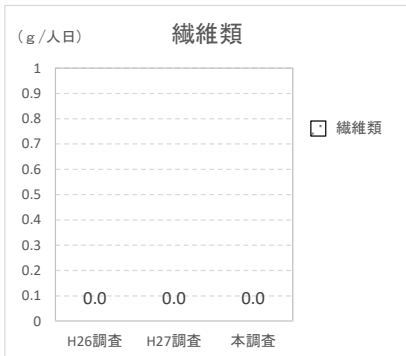
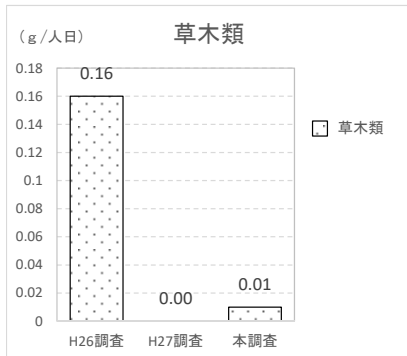
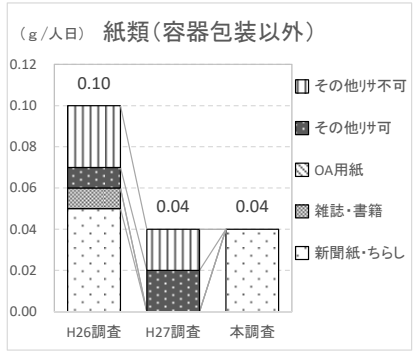
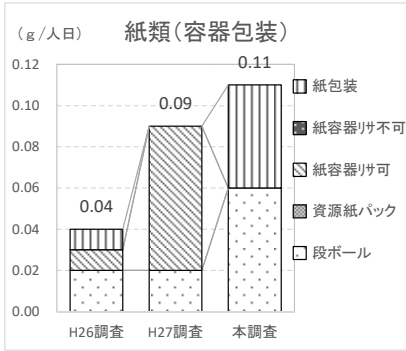
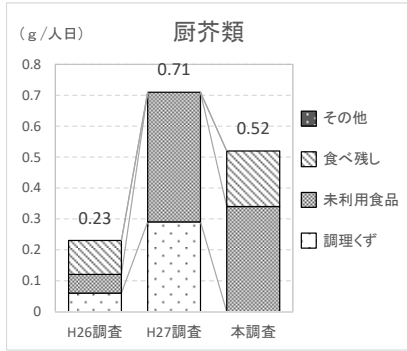
(6) 細分類における排出原単位

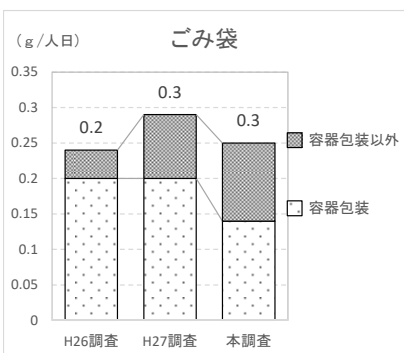
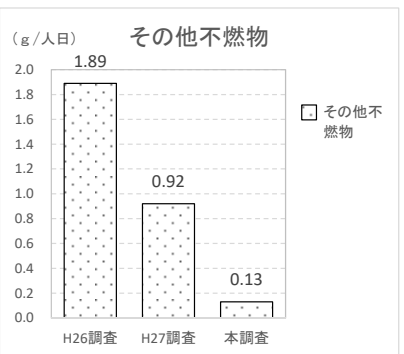
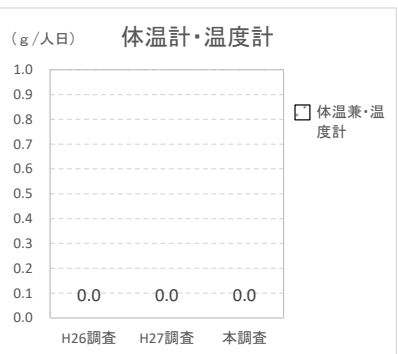
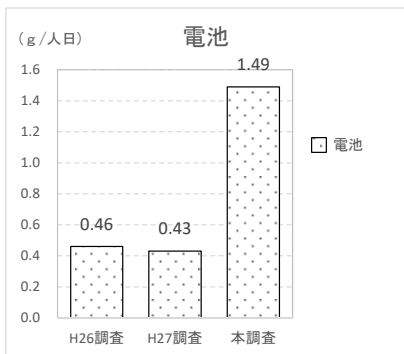
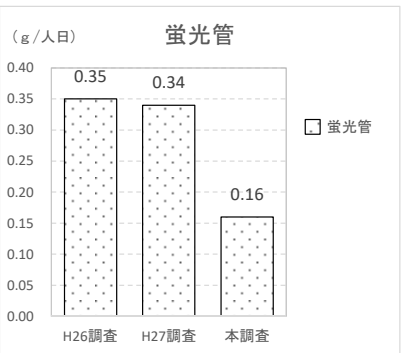
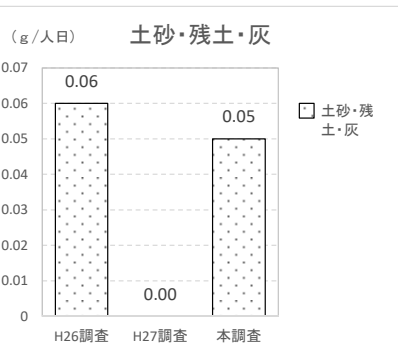
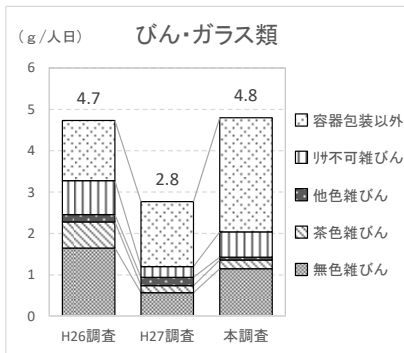
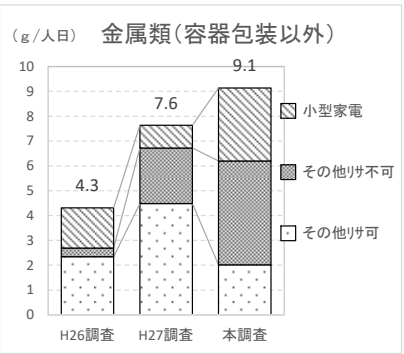
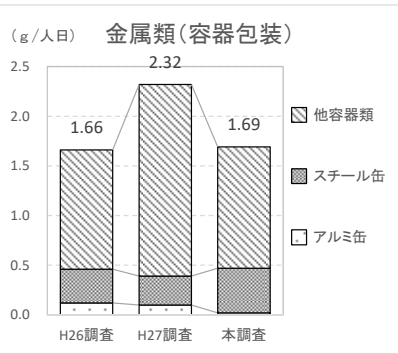
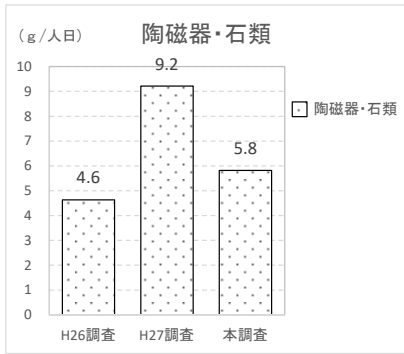
① 可燃ごみ





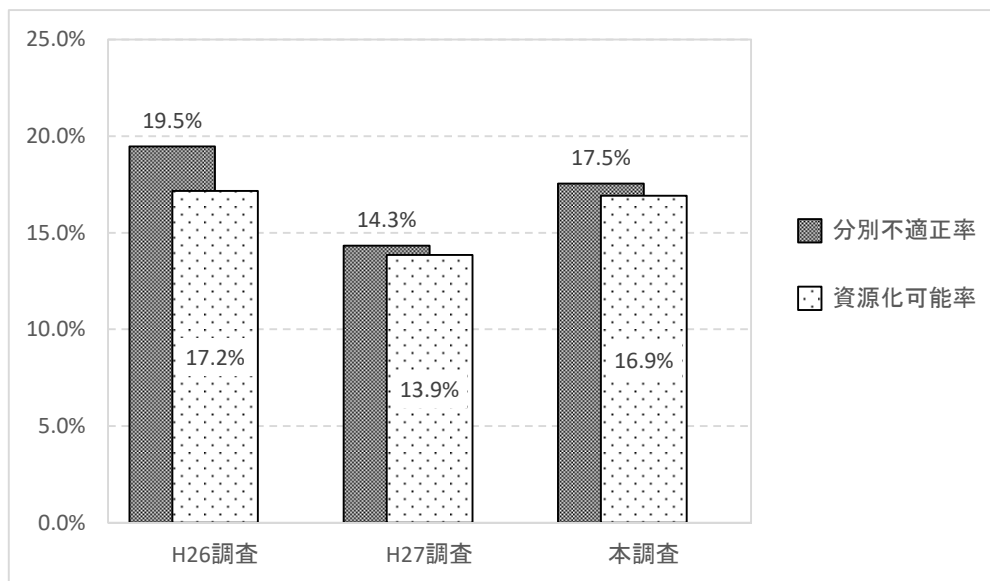
② 不燃ごみ



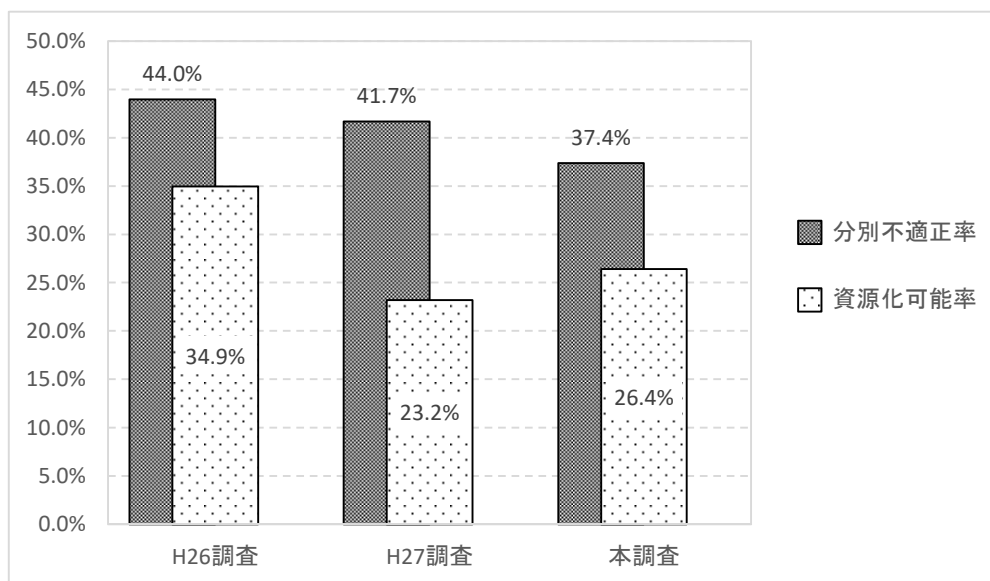


(7) 分別不適正率及び資源化可能率

① 可燃ごみ



② 不燃ごみ



※H27 調査の報告書において、分別不適正率及び資源化可能率に誤りがあったため、修正した数値を記載している。

家庭ごみ排出実態調査 報告書

平成30年 3月発行

委 託：北区 生活環境部 リサイクル清掃課
〒114-8508 東京都北区王子本町 1-15-22

受 託：八千代エンジニアリング株式会社
〒111-8648 東京都台東区浅草橋 5-20-8 CSタワー